

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム静園（ユニット静雲）		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙 3475 番地 1・3476 番地		
自己評価作成日	平成26年10月29日	評価結果市町受理日	平成27年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118 番地 1
訪問調査日	平成26年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた環境の中で、入居者が安心してゆっくりと生活できる様な環境の中で支援を行っている。他にはないお彼岸やお盆の行事等には入居者でお参り御法話などを聴く機会を設けている。また、同法人に保育園があるために、子供達の定期的な慰問があり入居者と一緒に歌や七夕などの短冊作りなどを行っている。
GH協議会や介護支援専門員連絡協議会においても自施設の看取りの取り組みについてなどの発表も積極的に行っている。また、スタッフのスキル向上のために独自の勉強会や、資格習得のための支援を事業所として行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

眼下に有明海が眺められ、周りに山や畑が広がり、景色の良い所に立地している。施設長は、9年前、京都から帰って来られ、母体がお寺となるホームを立ち上げられて、恩徳讃を歌ってお参りをし、御法話をされて利用者の心の拠り所になっている。今、100歳の利用者が3名おられ、目標は「元気で105歳まで生きる事」とされている。一人ひとりの気持ちを汲み取りプランに反映されて、利用者に寄りそう支援がされている。GH協議会で5協議会の研修会に参加し、施設内でも研修会を行っている。また、職員の資格取得の為に研修会参加等の支援をして、職員のスキ

ルアップに繋げている。法人には保育園もあり子供たちの七夕祭りや発表会の鑑賞などの交流や、ハーモニカの演奏会、近所の若葉会のおやつ作りの慰問が定期的であり、地域とのふれ合いを楽しまれていて、今後期待の持てるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	「いつまでも自分らしく笑顔で過ごす楽しいホーム」の理念を基に、毎月各ユニット毎に目標を掲げ、職員間で共有して、意識付けをし支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理髪店など、今まで通っていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	地域の住民として自治会に加入され、回覧版を回している。地区のお神輿にも来てもらっている。また、保育園との交流や、ハーモニカサークル、近所の若葉会よりおやつ作りの慰問を、定期的に来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がってはいる。しかしながら地域に向けた活動までは至ってはいない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、日常の支援や取組みについても外部の方の意見を聴くことにより、職員間の意識の向上にも繋がり、サービスの質の向上に活かされている。	会議は、2か月に1回開催され、日頃の支援の様子や、行事の報告等に、意見が出され、職員のサービスの向上に活かされている。委員の役職を会議毎に書かれ、見やすく書かれることをお願いしたい。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等には入居空き情報なども伝え、相談などがあるときは密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	運営推進会議にも参加してもらって色々な意見をもらったり、情報を知らせたりして、協力体制が築けている。市から虐待の研修会の知らせがあり、参加し、職員間で会議をして共有している。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、今現在行っていない。その都度、話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	玄関にセンサーを準備して、見守りをしながら鍵をかけない工夫をされている。身体拘束に関する勉強会を行って、職員の共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、必ず施設長か主任が十分説明を行い、利用者や家族の不安に対しては、分かる範囲であれば職員でも対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、コミュニケーションを図り、一ヶ月に1回はお手紙にて情報をお伝えする中で要望などに応える機会を設け、運営にも反映されている。	施設長と、入居者の会話の中で「夕方の申し送りが長くなると食事が遅くなる。」との意見が聞かれたため、苦情対応で話し合いをして申し送りを短くするように対処されている。月1回のおたよりで病院受診や日頃の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議の中に於いて、意見を聴く機会を設けている。又、個別には、管理者や副管理者が意見などを聴き、施設長などと対応を話し合っている。	入居者の重度化に伴い介護用ベッドを準備されたが、高さ調節が困難だった為、職員意見として、入居者本人が安楽な姿勢で、起居動作ができるよう、また、腰痛予防も踏まえて高さを調節するよう対応されている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>処遇改善手当や賞与がある。研修会等の参加を勧めて下さる。しかし給与賃金については一般に介護職の水準が低いので気持ちが落ちるときがある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させて頂いている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内については貼り出している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホームの連絡協議会に参加しながら発表の機会などもある。しかしながら、職員間の交流までには至っていない。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活歴等を知るために、入居時は何でもシート（情報記入）を利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が安心して、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションが図れるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人が出来ることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃の様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理髪店など、本人が行ける限りは、今まで馴染みのある場所へお連れするように努めている。	ホームへ入所前に近所の方や友人に転居場所を伝え、また受診先で、対面した際には、気軽に来訪できるように職員が、声を掛けながら友人との縁が、途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなる。施設長はお参り等でご家族とお会いされ、ご家族とお話しされた内容などを、時々伝えて下さる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくり出来る部分はして頂き、困難な場合は、本人が負担と感しない程度に声掛け等を行い、会議等でも話し合い検討を行っている。	日々の関わりの中で、入居者の話を聞いて寄り添っている。白い紙に入居者の情報や気づきなどを書いてフロア会議の時にインタビューシートにまとめて把握している。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 ite	日々様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	3ヶ月に1回、担当職員と入居者が参加し、意見に耳を傾けながらカンファレンスを行い、プランを立てて、モニタリングを行っている。変化があれば、1ヶ月に1回見直しが行われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙に工夫されている為、職員間でも共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しつつ、毎日の生活を安全に楽しく生活できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人の状態に応じて、往診での対応なども行っている。医療機関とは、看護師等が連携を図りながら支援に努めている。	基本的にかかりつけ医に職員支援のもと受診し、電話や便りを利用して担当者が受診結果を家族に報告している。状態に応じて、主治医による往診も行っている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設における重度化や看取りの説明を行い同意を頂いている。利用者の状態に応じて、その都度、十分に説明を行っている。	今までに3名の看取りを行っている。本人・家族には看取りについて説明し、同意を得ている。終末期においては、ビハラー僧として活動している施設長が、入居者や家族の心情に寄り添い、入居者のニーズに応じて家族・病院と連携して共有し、一緒に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。また、市で行われる救急救命の講習会に職員を参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回の消防訓練を行い、火災だけではなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治会に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家が無く、高齢の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	2ユニット合同で、昼間想定と夜間想定で、年2回消防訓練を実施している。職員に、消防団の方がいられるので心強い。スプリンクラー・自動火災通報装置・消火栓・消火器がある。風水害防災訓練の計画はあるが実施までには至っていない為、今後の課題としている。	傾斜地に面した立地にある為、地震・水害・山崩れの避難経路の再確認や、避難場所などの把握、更なる実効性の高い防災訓練の実施が望まれる。法人とホームには、距離がある為、何が必要か検討され、備蓄を用意し、備蓄リストを準備される事を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。 利用者の居室に入る時は、必ず声掛けをしてから入るようにされ、人格を尊重している。申し送りの際、固有名詞を使わないようにして、入居者の視線に配慮し、小声でノートを見せて情報を共有するなど申し送りの手法を考え連携を図っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定出来るような声掛けを心掛けて行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースや希望を汲み取りながらの支援に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のみではなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなどにも役割を持って頂き、晩酌などを楽しまれる方もおられ、楽しい雰囲気作りに努めている。 献立は1ヶ月ペースのメニューで作っており、野菜の持ち込みがあったら変更することもある。入居者に味の好みを聞いている。食器拭きや味付けなど、自分ができる範囲の役割を担い、自信や喜びにも繋がっている。食事の盛り付けや、肉の大きさを考慮され安全に食べてもらう工夫をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導等を行い自立に向けた支援に努めている。	布のパンツが2名、布のパンツにパットが1名、リハパンツにパットが1名、紙おむつが1名おられる。排泄チェック表があり、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導などを行い、トイレでの排泄介助に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯を利用者の都合に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	週3回の入浴と、入浴できない時は、清拭を行っている。胃ろうの方は、シャワー浴で、対応している。入浴拒否者には、無理強いせず、傾合いを見て、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に、快適に安眠できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会なども行い、薬がもたらす副作用などについても理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化して行っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕方にお酒を飲まれる方や、ココアやコーヒーなど個々の好みや時間で楽しまれ気分転換は出来ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるように出来る限りの支援に努めている。	近くのスーパーで、買い物や、馴染み深い港へドライブに出かけている。全員で桜の花見や足湯に行かれ、外出支援を行っている。重度の方が多くなり、レクリエーション(鍋パーティー)をして楽しみを増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事務所に管理しているが、数名の方は家族の了解の基に、ご自分で持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に変わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、お正月の年賀状を作成するなど支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体を通して、くつろげる環境に配慮し、時には季節を感じて頂けるような花や物などを置くように努めている。	玄関に地元の手作りのマスコットを置き、食堂兼居間は広く、入居者の作品や魚拓が飾られている。海に面した大きな窓のそばに畳の間が準備され、夕日が沈む様子や、季節の移ろいを感じることができ、寛いで過ごせる工夫がある。	居間が広く、ホールとして使われているが、季節感を感じさせる工夫や、安全に考慮した物品の配置等、寛げる空間作りとして幾分配慮が不足しているように感じられる。生活感や季節感を、職員で話し合い更なる明るい雰囲気や、居心地のよい空間作りを検討されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにソファや椅子を置き、利用者同士が話しやすい空間作りを工夫したり、畳の部屋で寝て頂けるような場所も整えている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス以外は、使い慣れた馴染みの物を使用して頂き、お仏壇や姿見なども置かれている利用者もおられ、本人が居心地の良い空間となっている。	居室には使い慣れた家具、テレビ、座イス、仏壇が置かれている。畳の部屋が好きな方には、畳を敷いて対応され、1人ひとりの生活習慣や、思いを配慮した居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであり、手すりや個人用トイレもあり、快適に安全で自立した生活が送れるように配慮されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えやすい場所に掲示しており、理念について話し合う機会もあり、職員の共通した指標となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方が、定期的に来園されたり、町の文化祭などに出席なども行っている。また、地域の一員として地区活動のお手伝いなども行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園内では認知症の方を理解するための勉強会等も行っているが、地域の方に向けた活動までには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などは、全体会議等で職員間にも伝えられ、サービス向上に活かされている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや、介護事業所とも密に連携を図りながら、研修会等も計画されるなど協力関係は築かれている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会を行い、周知徹底されている。声かけなどについても職員同士で心掛けて行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、周知徹底されている。声かけなどについても職員同士で心掛けを行い、虐待になっていないか確認しながら防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>成年後見制度については勉強会等も行い、市町機関と連携を図りながら活用できるように努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設長・管理者がご家族の契約の際には十分説明を行っている。また、ご家族が不安に思うことなどについては各受け持ち担当者や副管理者なども対応を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者委員を入れ、意見等を聞く機会を設けている。また、利用者に対して各担当者を決め、細かい意見も言いやすい環境を整えている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議や、フロア会議等で職員の意見や要望などを聞く機会を設け、運営に反映させている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>希望休日を設けたり、資格等を目指す者に対しては、施設より研修会の参加を呼びかけ、向上心を持って仕事出来る環境に務めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内にて、職員が研修担当となり独自の勉強会を行う機会を設けている。又、管理者研修や3年以上経つ職員には、実践者研修への参加が出来るように務めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>GH協議会における研修会参加や、他の施設との合同花見などネットワーク作りを行ってはいるが、職員間の交流とまでは至ってはいない。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>カンファレンスに利用者も参加して頂き、直接本人から日常の不安や希望を聞く機会を設け、日常の支援等に反映させている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階に於いては、管理者や施設長が家族や関連機関から情報などを聴き、利用者が望まれる支援や家族の不安等に対応している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスを利用される前に、出来る限り本人とご家族には来園して頂くように努め、直接見て雰囲気などを感じて頂いた上で、話し合いを行っている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきや洗濯物たたみなど、入居者の体調に合わせ、共に生活を送る者として単調な日常にならないように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族の手紙に於いて、利用者の日頃の様子などをお伝えし、来園時は、お部屋やホールにて、ゆっくりお話出来るように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	理髪店や病院などは、本人が今まで通われていた馴染みの場所や機関にお連れするように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮した席の配置や、一人の方が孤立されないように配慮した声掛け等も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入居されていたご家族が野菜や花を持ってきて下されたり、運営推進会議のメンバーとして現在も協力して下されるなど馴染みの関係を絶ち切らないように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一方的なこちらの思考にならないように、利用者の何気ない日常での会話などにも耳を傾け、本人の希望や思いを把握するように努めている		

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの生活歴や生活の記録もまとめてあり、ケアプランの中にも、短期目標が職員に意識できるよう配慮されている。又、話し合いの時にも、それらを利用しながら話し合いが行えるように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>記録や、申し送りノートなどを活用しながら、利用者の日々の対応に活かしている。また、利用者の急な変化に対しては特記事項などに記載し、職員全員で対応できるように心掛けている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会議やカンファレンス等で話し合いを行い、意見などを反映している。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活の記録を個人で記載し、食量なども細かく記録を残しながら、職員間で共有し、日々の介護計画に反映している。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ケアプランのみにとらわれず、日常の中に於いて、利用者の体調に合わせ、本人の意向を聴きながら対応が出来る様に取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>医療機関と連携を図りながら、本人が生きる意欲が持てるように支援を行っている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、ご家族が望まれる場合は、医療機関と連携を図りながら速やかに受診出来るように支援を行っている。又、利用者の体調の変化時、受診を行った場合は結果等を必ずご家族にお伝えしている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤であるため、日々の状態の変化等については、何時でも相談が出来る。又、急な状態の変化等についても24時間対応できる体制を整えている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関と連携を図りながら、利用者の状態に応じた対応を話し合い、ご家族とも相談しながら早期、回復に努めている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、施設における重度化や看取りの説明を行い同意を頂いている。利用者の状態に応じて、その都度、十分に説明を行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。又、市で行われる救急救命の講習会に職員を参加させている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を行い、火災だけではなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治会に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家が無く、高齢の方が多いため協力は得がたいのが現状である。</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、お一人おひとりの人格に配慮した声掛けに努めている。利用者同士の言い合いなどになった場合は、職員が間に入り、お互いが気分を損ねないように声掛け等も行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聴き、ケアプランに反映させている。日常の中に於いて、利用者の体調に合わせた声掛けを行いながら、自己決定を促している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間やレクリエーションの時間などは、施設の都合に合わせてしまうことがある。利用者の希望に添えているかと考えると難しい時がある。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、行事の時などは女性の方は化粧をしたり身だしなみには気配りをしている。起床時には、髪の毛を整え、寝間着から着替えるなど身だしなみに配慮している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の簡単な皮むきや、配膳を手伝って頂き、利用者が役割を持ちながら、食事を楽めるように、季節の花を飾るなど工夫も行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理に心掛け、お一人おひとりに合った支援に努めている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導等を行い自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの状態に応じて、医療機関と連携を図り、看護師と相談しながら、水分量や薬を調整して予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の入る順番などには配慮をしているが、入浴時間帯については個々に応じた対応は出来ておらず、施設の都合に合わせているのが現状である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や季節に応じた温度調整や、照明の調整、声掛けの配慮等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会を行うなど、薬の利用者に与える影響を職員は十分理解し、誤薬が起こらないようにチェック体制も強化して行っている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>単調な毎日にならないように心掛けながら、利用者の体調に合わせた支援が行えるように努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節に応じたレクリエーションを企画したり、利用者に応じた外出の機会を設けている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の状況に応じて、家族と相談した上で、本人がお金を所持している方もおられる。普段は、事務所金庫にて預かり、利用者の希望によって買い物等を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を掛けたいと言われる場合は、好きな時間に何時でも掛けることが可能である。又、個人で携帯電話を所有されている利用者もおられる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、レクリエーションの時の写真を掲示しながら季節感を共有し、楽しめるように配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアに畳の場所があり、そこで昼間に横になれる方もおられる。季節の花を飾り、訪問された方が、何時でもゆっくり話せるように椅子なども用意してある。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの椅子や、家族の写真などを置き、本人が自宅にいた時のような居心地の良い環境になれるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全で安心して移動できる空間を心掛け、居室が分かるように、目の高さにご本人の名前を掲示するなどの工夫も行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない